

# 仕事テーマに「混合」授業

## 太田一高と付属中一貫校の特色生かす

県立太田一高(常陸太田市栄町、鈴木清隆校長)の1年生と同高付属中(同)の2年生が14日、中高一貫教育校の特長を生かした合同探究授業を行った。昨年度はそれぞれの探究活動の成果を合同の場で発表したが、今回は初めて中学生と高校生が同じテーマで意見交換する授業を実施。中高校生が混合でグループをつくり、未来の社会を想像しながら「未来の仕事」をテーマに話し合った。



同授業には付属中2年36人と、高校1年で希望者33人が参加。中学生混合の5〜6人で一つのグループをつくり、初回の8日には各班ごとに自己紹介や、「未来はどんなあつてほしいか」を話し合った。

14日は各自が持ち寄った「未来の仕事」について意見交換した。20年後の社会を想像し、必要になる仕事やビジネスとして成立する仕事、社会貢献できる仕事などを出し合い、その仕事について利点や課題などを話し合い、実現の可能性な

「未来の仕事」について意見を出し合った中高校生＝常陸太田市栄町

どを探った。

ある班では、地球温暖化による海面上昇や水害防止のため、「土地を高くする仕事」を取り上げた。メリットに「水害の避難場所が家」「思い出の場所から引っ越さなくていい」などを挙げ、一方で「費用がかかると」「必要な資材量が多い」などを短所とした。別の班では「ドローン操縦社」を挙げ、セキュリティや天候不良、大量搬送、事故防止策などで意見を出し合っていた。

中学2年の海老根夏鈴さん(14)は「緊張したが、高校生がフレンドリーに接してくれたので楽しくできました」と感想。高校1年の廣木彩乃さん(16)は「高校生では出ない発想もあってよかった。中学生も発言しやすい環境を意識した」と話した。

鈴木校長は「中高一貫校を生かした学び合う視点で企画した。中学生が萎縮してしまつことを心配していたが、活発に意見を出していた。他の授業での展開も考えていきたい」と話した。

(飯田勉)